

日刊 建設工業新聞

発行所 ©日刊建設工業新聞社 2013 〒105-0021 東京都港区東新橋2-2-10 電話03(3433)7151 URL:http://www.decn.co.jp/

2013年(平成25年) 1月24日(木曜日) (10)

2013年(平成25年) 1月24日(木曜日)

(10)



竹林 征三
富士常葉大学名誉教授
山口大学時間学研究所客員教授

マスコミが「脱ダム」「ダムは無駄」「コンクリートから入へ」などと大衆受けする標語でこれでもかとキャンペーンを展開した結果、公共事業は悪者、その中でもダムは最悪者に仕立てられてしまった。

昨日まで「ダムは必要だ」としてダム事業の先頭に立っていたにもかかわらず、「ダムは無駄だ」と言い出した行政関係者もい

と確信し、実に勇気ある良識者であると英雄に仕立て上げる。マスコミはことあるごとに、これらの人を専門家に聞くとという形で露出

ことに気付く人がたくさんいる。ダムは無駄だと思っていたが実は重要だと気付

き、主義主張を変えた人は、自分のこれまでの無知を恥じてか、ノイジー・マイノリティからサイレント・マジョリティに変わって静かにされてしまっ。このようにして巨大マスコミがあらゆるメディアを駆使してキャンペーンをすれば、

誰か書かないので、居ても立つてもいられない気持ちで出版した。当然のことであるが、世の風潮に逆らう主張であるので小さい出版社しか取り上げてくれない。

治水は昔も今も命がけ

地域の悲願だったダム計画でさえも潰され、潰されずにする計画も事業の停滞を余儀なくされてしまった。

そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

た。そのような風潮にあっ

所論 諸論

これまでマスコミに踊ら

されて「脱ダム運動」をし

ていた人たちの中にも、少

し勉強をすればマスコミの

キャンペーンが誤っている

ことを人一倍研究して

きたとの思いがある。

災害が多発するようにな

った現状を踏まえて、ダム

はますます必要になってき

ていることを世の中の人に

知ってもらいたいとの思い

から、『ダムは本場に不要

なのか』『ダムと堤防-治

水現場からの検証』とい

う2冊の本を出した。

誰も書かないので、居

ても立つてもいられない気持

ちで出版した。当然のこと

であるが、世の風潮に逆ら

う主張であるので小さい出

版社しか取り上げてくれない。

ダム技術者の集まりであ

るダム工学会から著作賞を

いたたくことになった。そ

の表彰の理由が、この世の

中でこのような真実のこと

を主張されることは実に勇

気ある著書である、という

ことであった。

要はダムの専門家が本当

のことを言えなくなつたとい

うことである。役人は本

当のことをよく分かつてい

るが、大臣の方針に逆らう

ことを言つわけにはいかな

いので口を閉ざしてしま

た。

毎年どこかの地域が手痛

い洪水被害に遭っている。

それに対し、こつこつとダ

ムや堤防で治水安全度を上

げていかななくてはならない

のだが、世の風潮に逆らえ

ばマスコミから手痛い攻撃

を受けることになる。治水

の必要性を訴えることは実

は命がけなのである。

日本各地の災害の歴史を

調べれば、幕府に地域の悲

願である堤防の普請を訴え

て、打ち首になった多くの

治水義人の話が実に多くあ

る。

昔も今も治水は命がけな

のである。